



目黒 金夫さん(90) あさ子さん(85) 東和町・米谷3区 1951(昭和26)年4月入籍

仲良くけんかが円満の秘けつ

★二人のなれ初めは 【あさ子】当時、岩手県盛岡市の毛織会社で勤めだったの。したら両親が「いい人めつけながら、早くつけてこい」とって語らいてお見合いしたのっしや。
★お互いの第一印象は 【金夫】元氣いなくて、はきはきした人だなあ。
【あさ子】若くておぼっちゃんみでえだご。
★結婚当時の思い出は 【あさ子】お振る舞いは、おずんつあんの鱒淵の実家でしたの。べこさ乗っていったが、はっぱり着かなくてね。着いた頃には、せっかく結った髪、さつぱどほどけだでは(笑)。
【金夫】いづになつたら、おらの嫁ご家さ届くんたべど思つたね(笑)。
★現在の楽しみは 【金夫】山歩きして山菜取つて。あど、シルバーの仕事だね。
【あさ子】お茶っこ飲み、畑ど花つこの世話だね。
【2人】二人とも、体ほろがしてねえど落ち着かなくてね。
★夫婦円満のコツは 【2人】仲良くけんかすつことだね(笑)。
★これからやりたいこと 【2人】特別なごとしねで、今まで通り、やんべくせ仕事して、仲良くけんかだね(笑)。

One's Home

ふるさとへの思い

Monthly Hot Communication

「おふくろの味」

笠嶽山の前に広がる田んぼ、松籟の音。そんな所に育った私も、東京に出て五十有余年。故郷で暮らした時をはるかに超えました。東京に来て、自然を求めて山に登ったり、旅に出たり、自宅にはハギ、ヤマツツジ、ジュンラン、スマイレアケビなどを植えて、季節の移り変わりを楽しみ、現在に至っています。
高校時代、土ぼこりが上がる道を、自転車でも50分もかけて通学したことが思い出されます。都会では「サイクリングならいざ知らず、毎日のことなんて」と驚かれます。そのお陰か分かりませんが、めつたに風邪もひかず、元氣に過ご



高綱 千鶴子さん(71) 東京米山会総務部 米山町(貝待井)出身

しています。
東京米山会には、30年ほど前に入会しました。同級生に誘われたことがきっかけです。同郷の人たちに会えるのがよろこびでした。今ではミニクラス会のテーブルもあります。また、物産展で故郷の味を買い求めるのも楽しみの一つです。
主人は新潟生まれなので、私は日頃故郷の言葉を聞くことはありませんが、役員会、総会や懇親会で、田舎のなまりの飛び交う中に身をおくことができ、ほっとしています。
昨年、古希を祝うクラス会が開かれました。年を重ねると、故郷に帰つても泊まる所がないという話になり、寂しい思いをしました。しかし、良きにつけ、あしきにつけ、故郷のニュースに一喜一憂し、勝負事で登米市や宮城を応援しているのは、私ばかりではないと思います。
便利な都会に住みながら故郷に思いをはせるのは、高級レストランや料亭のおいしい料理を口にしても、やっぱり「おふくろの味」が忘れられないのと同じ感覚かもしれません。いつまでも「心のよりどころ」となる「ふるさと」であつてほしいと願っています。

おらほの産直

農産物直売所 「産直なかだ愛菜館」



「切り餅」と「麦芽あめ」で、いつでもお正月気分を味わえます。懐かしく優しい味を、一度ご賞味ください。

今月は、農産物直売所「産直なかだ愛菜館」の菊地いくさんに話を伺いました。
Q 雪の季節になりました。今の時期の売れ筋を教えてください。
A お正月を迎えることもあり「餅」関係がよく売れますね。あんこ、こまやくるみなどの加工餅は年中販売しています。が、この時期は特に「切り餅」の人氣が高いですね。切り餅は12月から2月末ぐらいまでの限定商品です。
昔は、お正月といえば、どこの家庭でも餅をついていました。しかし、核家族が進



「安全安心でおいしいお餅を家族でどうぞ」と菊地さん。

んだこともあり、販売している切り餅で済ませる家庭が増えていくようです。当店の切り餅は、100%中田町産のみやこがねを使用。一切添加物を使っていないので、安心して食べてください。
餅と合わせて「麦芽あめ」も

この時期の売れ筋商品。餅にきな粉を入れた餡餅は、子どもたちにも人氣があるようです。麦芽あめには、麦芽糖という成分が含まれ、血糖値の急激な上昇を防いだり、腸内環境を整えたりします。砂糖よりカロリーが少ないので、ダイエット効果もあるんですよ。
原料は、100%市内産の大麦を使用しているので、安全で品質も間違いありません。ぜひご賞味ください。
【問い合わせ】農産物直売所「産直なかだ愛菜館」
☎0220(35)3050

まちの文芸

俳句・川柳

作品募集!
●2月号は短歌です。住所・氏名・電話番号を記入し、1月5日(木)まで応募ください。作品には全てふりがなを振ってください。応募者多数の場合選考して掲載します。

川柳
ヒラとトラ番狂わせでアベ手立ては
ありがとうと言われて照れる夫婦愛
小雪に都マヒして里笑う
俳句
青みかん菓の数の増えにけり
チンドン屋招き手づくり文化祭
紅葉見や古希を最後の同級会
管原たゑ子(迫)
太田 若男(迫)
塚本 守司(登米)
千葉 泰子(迫)
藤野 尚之(迫)
千葉 富子(東和)

絶巖の一本杉や空澄めり
北上川に姿映して山粧う
秋田路の曇天寂し秋名残り
青みかん握り四方山話かな
帰り来て靴の底の青みかん
蕉翁の行きし古道や草紅葉
初冬や路つながりし三陸道
瑞巖寺参道まっすぐに秋の海
及川奈奈夫(東和)
千葉サキコ(東和)
千葉 信子(中田)
高橋武比古(中田)
浅野喜代子(中田)
山内 雅子(中田)
須藤 桂子(津山)
大友ふき江(津山)

応募総数32作品